

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100166		
法人名	社会福祉法人 華頂会		
事業所名	グループホーム せいか		
所在地	滋賀県大津市大萱6丁目9-9		
自己評価作成日	令和 5年 5月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5年6月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が勤務しており利用者の健康状態を把握、管理を充分に行い、協力医療機関との連携を密にして利用者に安心して暮らして頂けるように努めています。 ・体を動かすレクリエーションや体操を取り入れ、利用者のADLの低下を防ぐことによって、当施設で長く元気に生活していただけるように努めています。 ・利用者が希望や想いを伝えやすいようコミュニケーションをとり、家族には写真付きの手紙やビデオ電話でコロナ禍で面会が難しい時期でも利用者の様子が伝わるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年度は、自治会の組長を努め地域との交流がより深まって利用者とのふれあいや避難訓練を近隣の住民と一緒に等協力関係が出来た。以前は、看護学生の寮だった建物は、職員にとって動きやすいとは言えないが、利用者の安全と自由を確保するために常に、職員間で連携を取り合いながら支援する姿勢が伺えた。この数年は、コロナ禍で面会の制限があったが、毎月、利用者一人ひとりの暮らしの様子を写真付きで丁寧に伝え家族等の不安軽減に努めていた。事業所の構造上、看取りは困難と考え身体的に重度化の傾向にある場合は、本人・家族の意向を尊重しながら住み替えの提案をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や2階に提示し管理者、職員共に共有し実践につなげている。	事業所の理念を全職員で共有し実践に努めている。利用者一人ひとりの「その人らしく」に沿って支援出来ているかを日々の申し送りや毎月のカンファレンスで振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、一斉掃除や行事に参加している。昨年度は組長の役割を担い、1年間努めた。今年度は近隣住民の方にも避難訓練に参加して頂いた。	自治会の一員として協力関係が築かれている。ベランダでBBQを楽しんでいる時、近隣の方から差し入れがあったり、日常の散歩時には地域の方と挨拶や会話を交わし利用者との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の出来事を記載した、せいか独自のホーム便を2ヶ月に一度、近隣に配布し施設状況を理解して頂くようにしている。また高齢者に関する相談を気軽に頂けるように記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議の開催が出来ていないが、近況やサービス提供の状況についての報告、事故報告等、その時の状況に応じた内容を文章や写真にて報告している。	コロナ禍は書面で事業所の現況や取り組みを報告していたが次回からは参集して開催予定である。	より活発な意見交換となる運営推進会議を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなど、電話で問い合わせしたり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、相談を受けたりしている。	必要時は直接、市の担当窓口に行き相談したり電話でもやり取りして協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため、玄関の施錠をしている。当施設は1ユニットだが、1階2階と分かれ階段があり、離設・転倒事故防止の為、センサーを設置しセンサー作動時、声を掛け合い事故防止に努めている。家族には充分説明し、理解・同意を得ている。又、内部研修も定期的に行い、身体拘束をしないケア	外部で身体拘束ゼロセミナーを受講した職員が内部で伝達研修を行って正しい理解を確認している。建物の構造上2階の階段部分に「鈴」を取り付けているが察知した職員がすぐに上り下りに付き添って安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施し、虐待についての理解を深めている。見過ごすことがないように常々職員全員が心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はおられないが研修など出来るだけ参加するようにし必要性があれば、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明後、納得されてからサインを頂くようにしている。一度に多くの説明で分かりにくい時は再度ご一読頂くようにして家族が納得されてから契約を交わすようにしている。改定の際はその都度同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、現在の状況を報告させていただき、何かあればご意見を頂くようお伝えしている。ご家族が来所された時やお電話で話す機会がある時は職員のほうから声をかけ、意見や要望を伺うようにしている。	月1回は利用者の暮らしの様子を写真入りで伝え感想や意見を聞く機会としている。現在は予約面会であるが来訪時には意識的に伺うようにしている。意見や要望は職員間で検討・共有して反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のカンファレンスや毎朝の申し送りで見えや提案を話す機会を設けている。日頃から気軽に意見が言い合える環境作りを努めている。	管理者に言いにくい事は他の職員より伝えてもらったり、特に新職員には管理者より意識的に声をかけている。勤務年数に関わらずお互いに意見や提案が出しやすい雰囲気であると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話の中からも個々の職員の勤務状況や職場環境の希望等を聞き取り、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策を取り外部の研修に参加できる機会が増えてきた。研修内容はカンファレンス時に発表し内部研修で他の職員にも周知、学ぶ機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者など交流の機会があれば参加するように努めている。同じ法人内の特養やグループホームとも相談し合い、サービス向上への取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入初期は本人との会話を十分にを行い、不安に思っていることはもちろん、本人の生活歴や趣味など出来るだけ多くの情報を得て関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や面談時に家族に対して困ったこと、不安なことを伺っている。入所申し込み後の待機時も定期的に連絡を取り、現在の状況や困っている事など様子を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集をすることにより本人や家族が望む暮らしに何が必要なのかを見極め、必要なサービスの支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残された能力を活かしてできる家事や掃除をして頂いたり、昔の方ならではの知恵やお話をお伺いしたりしながら暮らしを共にできる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係の形は様々であり、事情を理解し、必要時には話を聞いたり、ケアの方法を相談したりして、家族と共に支えていける関係づくりを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会は感染防止のための制限を設けているが、オンラインによる面会を取り入れており、遠方のご家族やお知り合いとも面会を行えている。オンラインが難しいご家族等はお電話でいつでもお話して頂ける様にしている	コロナ禍で直接の出会いは少なかったが、電話の取次ぎや馴染みの知人とオンライン面会を支援して関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で、関係を把握し、周囲への配慮をしながら、利用者同士のコミュニケーションが図れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設へ面会したり、ご家族には退所後の様子を伺ったりしている。また、困ったことがあれば相談にのれるよう声掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向は職員や他利用者との日常会話やご家族と話されている内容からも把握に努めている。また聞き取りが困難な場合も本人の表情や仕草などからも把握に努めている。	日常の会話の中で問いかけたり、何気ない言葉や表情から本人の思いや意向の把握に努めている。把握した一人ひとりの思いの実現に向けて職員間で話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時や入所時に本人や家族からの話にて生活歴などの情報を得ている。また、入所後は本人や家族との日常の関わりから馴染みの生活環境や本人の性格の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での会話や行動、心身の状態などから現状の把握に努めている。また、日々の申し送りや記録などで職員が情報を共有しており、支援に活かせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスや毎日の申し送りにて課題やケア方法を話し合っている。本人・家族に相談し、希望や意見を伺い介護計画に反映している。必要時は主治医や看護師に相談して計画に取り入れている。	本人には日頃の暮らしの中で・家族等には面会時や電話で希望や意見を聞き、カンファレンスして介護計画を作成している。個別の介護記録を参考にして職員間で意見交換してモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は必ず記入している。毎日の申し送りや毎月のカンファレンス時に職員間の情報共有、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の個々の希望や状況に合った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域行事の情報を集め参加している。コロナ禍で感染防止の為、現在は控えているが、以前は近隣のボランティアの方にも行事に参加して頂き、利用者楽しんで頂けるようにご協力してもらっていた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を伺い、納得を得られた上で家族の協力も得ながらかかりつけ医に受診している。定期受診や受診結果も本人・家族に報告している。	本人・家族の希望を聞き、事業所の提携医での通院や往診で健康管理されている。認知症専門医には、以前からのかかりつけ医に基本職員同行で受診して家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、心身の状態や変化は常に報告している。異常があれば24時間連絡がとれ、速やかに適切な受診が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーにて情報交換を行っている。入院中は病院と連携を取り、早期に退院できるよう相談している。又、かかりつけ薬局を決めており、すぐに相談や問い合わせが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所での生活や出来る範囲を説明して、本人や家族の意向を確認し、その後も随時意思確認を行っている。重度化の場合は地域の医療機関や関係者と協力している。	事業所の構造上(階段や入浴設備)の関係で看取りは困難な事を契約時に説明している。身体的に重度化の傾向にある時は、住み替えの提案をして関係機関と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はケア会議や日々の申し送り時に話し合っている。また、研修に参加した職員は全職員対象に勉強会を行い知識向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回(そのうち1回は夜間想定)の避難訓練を行っている。近隣の方には災害時に避難した利用者の受け入れや見守りも協力して下さるよう承諾をいただき、訓練にも参加して頂いている。	定期的に避難訓練が行われている。訓練に近隣の方も参加され協力体制が築かれている。災害時の食料や応急物品の備えもある。	様々な災害を想定した避難対策、減災について地域の方や家族等と継続して意見交換が出来ればいいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやさりげないケアなど人格を尊重するよう日々努めている。又、定期的に内部研修を行ったり、職員間で話し合い、利用者に寄り添った言葉かけが出来るよう注意して支援している。	ケアの開始時の言葉がけ、自己決定し易い言葉がけ等は常に誇りやプライバシーを損ね無いよう務める。管理者は気になる言葉遣いがあれば、声をかけたり、研修時の例題に組み入れる。月1回かんファレンス時話し合う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を伝えやすいような雰囲気や言葉掛け、対応を日々職員間で話し合い、実践するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。レクリエーションも何がしたいか利用者の希望を聴きながらおこなっており、気分が乗られない方には個別対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問散髪にて希望のカットをされている。整容もなるべく本人にしてもらい、難しいところは介助で行っている。誕生日にヘアアクセサリー等をプレゼントしたりしておしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲のない利用者には本人が食べたい物を聞いて個別で準備するなどして食事が楽しみになり、食欲が増すよう努めている。感染防止の為、職員と一緒に食事は行っていない。	旬の食材や行事食等バリエーションにとんだ調理済みのメニューを提供。ご飯・汁物はリビングの一角のキッチンで作る。個人の好みにも個々に対応。外食の機会は無くなっているが、ベランダでのBBQや出前寿司で楽しみの日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取、食事量を確認して、記録している。又、自力摂取しやすい状態に合わせ、食事形態を工夫して提供している。又、水分を進んで摂られない方には声を掛け促すよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄の声掛けや介助を行っている。又、必要時には歯科受診をして、口腔ケアのアドバイスを頂き、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や様子を見て、トイレ誘導を行い、一人一人の排泄パターンを把握するよう努めている。又、利用者に合ったパットの種類を使い分け、自立に向けられるよう支援している。	自身でトイレに行く、意思表示が困難な利用者等、個々に応じた対応を実践。表情や動きから判断し、さり気なく声掛け・誘導する。吸水機能のある布パンツへの移行も検討中。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動でなるべく自然排便に繋がるよう努めている。又、状況を見て医師の指示にて服薬による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添えるよう支援している。又、体調を考慮した上で好みの湯温や入浴時間、入浴剤使用等工夫し、個々が気持ちよく入浴出来るよう努めている。	週3回入浴日を設定だが、利用者の気分や体調に応じ、柔軟に対応。同性介助希望にも対応。調査日、浴室からは介助者と利用者の笑い声が終始聞こえていた。入浴剤の活用等で気分良く入浴できる工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理、乾燥対策で加湿などを行い、安眠に繋がるよう努めている。眠れない方にはお話を聞いたり、温かい飲み物提供したりと、安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルに閉じ、職員がすぐに確認できるようにしている。又、薬の変更があれば申し送りにて全職員が把握し、周知できるよう努めている。症状の変化や副作用はないか観察し、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や季節の制作など毎日のレクリエーションを工夫し、気分転換が出来るように努めている。家族の情報や、本人との日々の関わり中で、一人一人の趣味を理解したり、出来る事や楽しみを見出すことができるよう関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出は控えている。職員と近所に散歩に出かけたり、ドライブで気分転換を図っている。	コロナ禍の間は、ホーム前の道路を往復する程度の散歩や、2階ビンをコの時に囲む広いベランダの端にお地藏様を設置し、お参りがてらの散歩の工夫をしている。直近の会議で、飲食を伴わない外出を7月から再開することが決まり、今後は改善が見込まれる。	法人会議で決定された外出支援が、7月から実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が管理すると、紛失などでトラブルを招く恐れがある為、家族から小口をお預かりしている。本人や家族と相談のもと、必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話にてお顔を見てお話しして頂いている。家族の理解がある方は希望時電話を繋ぎ、お話しされている。手紙のやり取りは現在行っている利用者はいないが、希望があれば支援できる体制である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく見晴らしがよいので、明るく、気候や四季を感じる事ができる。室内は季節の貼り絵や塗り絵などを利用者と一緒に作成し、飾る事によって季節感を出している。	ベランダに面した開口部から十分な採光があり、リビング右手奥にキッチンがある。炊飯の匂いや食器の音が食事時間を喚起させる。適度な広さが確保され、殆どの利用者がお喋りや創作活動、歌を歌ったりして、1日の大半を過ごされる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビや新聞、雑誌を見られたり、気の合った利用者同士でお話しなどされて過ごされている。一人になりたいと希望された時は、制限せず自室にてゆっくりとして頂き、自由な時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物、家族の写真や位牌などを本人、家族と相談し、持参して頂いている。出来るだけ本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	配偶者の位牌、趣味で制作したマスコット、レトロで豪華な椅子等々、個々の利用者の思いに添ったレイアウトで、居心地良い雰囲気である。広さも適度で、ベッド以外、持ち込み家具を配置しても十分なスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、掃除など一人一人できる事を見出し、職員と一緒にしている。作業中は危険だからと過度に制限せず、見守りの徹底や道具や場所等を工夫し、安全に作業できるよう努めている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	備蓄品等の確保はしているが、火災以外の訓練が行えていないのが現状。	発生することが予想される停電や地震に備えて、現在作成中のマニュアルを完成させ実際に行動する。	地域の避難場所の確認、実際に歩いて危険箇所を確認する。 停電時を想定し、ポータブル電源で照明や空調を使用し、稼働時間や充電時間の確認を行う。	6ヶ月
2	18	コロナ禍で外出支援が行えていない。	夏場は暑さが厳しいので、秋頃には外出や外食がしたい	秋の紅葉の季節に紅葉狩りで近隣の紅葉スポットへのドライブ・外出を行う。	12ヶ月
3	29	コロナ禍でボランティアを呼んだ行事があまり行えていない。	コロナ前のように行事の際には地域のボランティアの方にも参加して頂き、利用者の皆さんに楽しんでもらえるようにする。	コロナ前に繋がりがあったボランティアの方々に連絡を取り、予定を調整する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()